

意見書（四国放送）

再意見提出者	四国放送株式会社
--------	----------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015 年ごろや 2020 年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備）	
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時、住民への災害状況ならびに危機回避の周知を行うのは、放送局としての責務と考えている。災害情報の中継を行う際に高度が低い位置から伝送を行う事は、中継を行う側の安全性（伝送及び人的なものを含む）を鑑みた場合の重要なポイントとなる。一方、マイクロ波帯 F P U では「見通し伝送」が必須であるため受信側（受信点）が見通せる高所に送信機を設置する場合が多く風雨が強い中での作業などの場合、危険を伴うことがある。この点からも「見通し外伝送」が可能な 8 0 0 M H z F P U は必要と考えられる。 ・ 災害中継を行う場合、同一場所に放送局各社が集まる可能性が高い。その際、各社が 8 0 0 M H z F P U を使用するとすれば、やはり F P U のチャンネル 4 C H 分に当たる 3 6 M H z 帯域は必要である。 ・ 移動を伴う 8 0 0 M H z F P U 使用による中継を行う場合、周波数共用している特定ワイヤレスマイクの同時使用も考

	えられる。このような場合、相互に干渉妨害を与えないように運用時間の調整等を行っている。また、他局との調整等も行なう事により高い周波数有効利用を実現している。
--	--

No	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
	800MHzFPU を他の周波数へ移行すべき、との意見が何件かあります	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1GHz を超える周波数帯において、「見通し外伝送」を可能とする技術開発ならびに実用化が必要だが、物理的な電波伝搬特性に依存するものであり、その目途がたっていない。 ・ 移動を伴う中継時、電線、歩道橋等、電波を遮るものが多く「見通し外伝送」が実証されている800MHzFPU 以外の1GHz を超える周波数利用では、電波遮断による寸断等の中断を防ぐ事が出来ない。(視聴者に良質のサービスを提供出来ない。)
	FPUやラジオマイクはホワイトスペースに移行する、という意見があります	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の緊急中継を考えた場合、送・受両エリアにおいて、共通の空き周波数を確認し確保する事は困難である。また、移動を伴う中継において、エリア移動中にシームレスなチャンネル変更を行う技術開発及び実用化の目途がたっていない。加えて、36MHz帯域(4CH分)の確認、確保も非常に困難である。 ・ ラジオマイクも同様に、中継時の使用においてFPUと同時使用の場合相互干渉妨害の発生が懸念される為、さらに使用可能な周波数帯を探す必要が発生する。また、対象周波数が広帯域となる為、送受信機の広帯域化が必要となり、機器開発にも大きな課題がある

		と思われる。
	TV 帯を更なる圧縮（再リパック）せよ、との意見があります	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルＴＶ放送で使用している周波数帯域は「全国地上デジタル放送推進協議会」が中心となり、長年の技術検討を重ねた上で算定し、制度化されたものである。よって、技術面から見て圧縮は困難である。 ・ 季節性フェージングによる混信妨害対策の為に、チャンネル変更を行った事例もある。デジタル放送ネットワーク構築中であり、更なる圧縮は困難である。